

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

6年1組		指導者	〇〇〇〇	教科等	理科
単元	単元名等		ものの燃え方		
	目標	評価規準	※どちらかを選択し、 で囲ってください。		
	知識及び技能	知識・技能	○物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 【A（1）ア（ア）】		
	思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現	◆燃焼の仕組みについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ○燃焼の仕組みについて、観察、実験などを行い、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 【A（1）ア（イ）】		
	学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度	○燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ○燃焼の仕組みについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。		
	単元の学習展開（全10時間）				
	導入	□問題を見だし、学習計画を立て、見通しをもつ。			
展開	□予想や仮説を基に、観察、実験などを行い、結果を考察する。 ・ろうそくの燃え方と空気の動きの関係。 ・ろうそくが燃える前と後の空気の変化。 ・木や紙が燃えたあとの空気の変化。				
終末	□物が燃えたときの空気の変化についてまとめる。				
本時 （4／全10時間）	ねらい	気体（窒素・酸素・二酸化炭素）や空気のを燃やすはたらきについて、集気びん（気体）の中でろうそくが燃える様子を観察・考察したと、集気びん（空気）内でろうそくを燃やすとやがて消える様子とを関係づけて考えたり話し合ったりすることにより、「集気びんの中の酸素が減り、二酸化炭素が増えるのではないかと予想することができるようにする。 （下線部…単元の評価規準との関連【◆思・判・表 記述分析・発言分析】）			
	学習過程	「めあて」 「集気びんの中でろうそくが燃えるようすを調べよう」 『課題』 『なぜ、集気びん（空気）の中のろうそくは消えたのだろうか』 『まとめ』 『集気びんの中の酸素が減って、二酸化炭素が増えたから（予想）』 「振り返り」の視点 ・予想を確かめるためにどんな実験が必要か			
	努力を要する状況の手立ての児童生	【予想されるつまづき】	【必要な支援・手立て】		
		・観察の内容を記録できない。 ・観察から必要なことを見つけれられない。	・整理するための視点を示して記録させる。 ・観察対象を録画し、ICT端末で繰り返し見られるようにしておく。		